

# 伊勢湾・衣ヶ浦を 往き交う 人・モノ

緒川・刈谷を治めた水野氏はその間にある衣ヶ浦（現在の衣浦湾）の恩恵により成長していきます。江戸時代以前の衣ヶ浦は、今よりはるかに広い入江になっており、知多半島を往来する舟や、伊勢湾を通る船の中継地点となっていました。ここでは、古代から江戸時代の知多半島・衣ヶ浦周辺を往来する人やモノについて紹介します。

問 歴史博物館（☎63-6100）

## 1 古代～中世

### 陶磁器の流通

この地域の特産品として知られるのが陶製品です。刈谷には猿投窯の南端に位置する井ヶ谷窯が点在していました。また、県内には瀬戸や常滑などの古窯もあり、そこで作られた陶製品は地元で消費されるだけでなく、遠方にも船で運ばれる主要な交易品でもありました。例えば常滑焼は、海を渡り、遠く関東各地に持ち込まれました。その証拠としてこれらの遺物は関東の遺跡からいくつも見つかっています。海沿いの遺跡だけでなく、内陸の遺跡からも出土していて、この地域の焼物が河川を伝って内陸にまで持ち運ばれ使用されたのだと考えられます。



自然釉壺（常滑焼）  
（埼玉県朝霞市宮戸 宮戸経塚出土・東京国立博物館蔵）  
画像：ColBase [https://colbase.nich.go.jp/]

一方で、海を通じて刈谷に入ってくるものもありました。中条遺跡（重原本町）では中世～戦国時代の陶磁器が多く見つかっていますが、その中には輸入品も発見されています。12～13世紀頃の貿易陶磁のほか、15世紀末～16世紀初頭に景德鎮窯（中国江西省）で焼かれた皿も出土しており、刈谷にも海外からの輸入品がもたらされていたことや、この地域を治めていた人物の経済力を知ることができます。



中国製陶磁器（景德鎮窯）  
（刈谷市中条遺跡出土・当館蔵）

表 知多・刈谷を通った人々の旅程（赤字は刈谷市周辺の町場）

年代	旅行者	経路（抜粋）	出典
明応8(1499)年	飛鳥井雅康	…〔伊勢〕亀山―〔尾張〕大野―緒川―〔三河〕大浜―佐久島… …〔遠江〕汐見坂―〔三河〕竹島―〔尾張〕緒川…	富士歴覧記
永正10(1513)年	冷泉為広	…〔伊勢〕長太―〔尾張〕大野―成岩―〔三河〕大浜―鷺塚…	為広駿州下向日記
同13(1516)年	宗長	…〔伊勢〕大湊―〔尾張〕常滑―〔三河〕刈谷…	宗長手記
大永2(1522)年		…〔三河〕本野が原（豊川市）―刈谷―〔尾張〕常滑―野間―〔伊勢〕大湊…	
同4(1524)年		…〔伊勢〕亀山―〔尾張〕大野―〔三河〕刈谷―土呂（岡崎市）…	
同6(1526)年		…〔三河〕深溝―刈谷―〔尾張〕守山―熱田―清須…	
同7(1527)年		…〔尾張〕笠寺―鳴海―〔三河〕刈谷―安城―矢作…	
天文13(1544)年	宗牧	…〔伊勢〕桑名―〔尾張〕大野―成岩―〔三河〕大浜―鷺塚…	東国紀行
同22(1553)年	大村家盛	…〔三河〕岡崎―大浜―〔尾張〕成岩―常滑―〔伊勢〕長太…	参詣道中日記
弘治3(1557)年	山科言継	…〔三河〕岡崎・矢作―大浜―〔尾張〕成岩―常滑―〔伊勢〕長太…	言継卿記
永禄10(1567)年	里村紹巴	…〔尾張〕杓掛―〔三河〕八橋―刈谷―岡崎…	富士見道記
		…〔三河〕岡崎―刈谷―〔尾張〕緒川―大野―熱田…	

## 2 室町～戦国時代

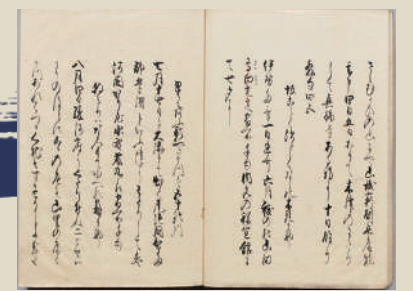
### 緒川・刈谷水野氏の元を訪れる人々

室町一戦国時代を生きた連歌師の宗長は、文化人の中でもスター的な存在であり、遠江国宇津山（現静岡県湖西市）に柴屋軒という庵を編み、各地を訪れて連歌会を催していました。大名や国衆\*1は、連歌の師として宗長を招き、教を乞うていました。

原本は伝わっていませんが、宗長の記した紀行文\*2によれば、永正13年7月17日、伊勢の大湊を出た宗長は船で常滑に渡り、刈谷の水野近守（藤九郎、和泉守）のところに滞在して千句連歌を催しました。大永2年5月には、三河国内が合戦状態となっていたため、東海道の矢作・八橋を避け、本野が原（豊川市）から舟で三河湾を渡って刈谷の近守のところへ行き一泊しています。翌日には常滑の水野紀三郎という人物のところに滞在し、野間から伊勢大湊へ渡って行きました（表）。

\*1…一国よりも小さい範囲、郡・庄など一定の所領を独自の裁量権に基づき支配する者のこと

\*2…宗長手記・宗長紀行など



宗長紀行（刈谷市中央図書館村上文庫蔵）

宗長をはじめとした文化人がなぜ水野氏の元を訪れたのかというと、宗長らの文化活動を支えるスポンサーでもあったからです。大永7年の3月、水野近守の館に滞在した宗長は、土産にと500疋\*3を受け取っています。この他前年も銭にと1000疋受け取っており、これまでもらった額を合わせると万疋にも及ぶ援助を受けています。宗長が「おそろしおそろし」と言うほど、当時の刈谷水野氏は富を蓄えていたのです。

公家の山科言継は、後奈良天皇十三回忌法要の費用捻出のため永禄12年に京都から下向してきましたが、織田氏や徳川氏のほか、水野氏の財力を見込んでおり、水野信元は200疋を朝廷に進上しています。尾張の織田氏の経済力は津島や熱田の湊を押えたからだと言われますが、水野氏の財力も衣ヶ浦の湊によってもたらされたと考えられるのではないのでしょうか。

\*3…1疋=10文。1文=50円と仮定して500疋は25万円ほど

永正13年および  
大永2年の宗長の経路  
（表抜粋）

